

第80回麻布獣医学会 一般講演11

バー・スーチャー法による第四胃左方変位の治療成績

小中 一成, 山田 裕, 内山 史一, 加藤 真紀, 猿山 由美, 磯 日出夫

磯動物病院：栃木県

はじめに 第四胃変位 (DA) は酪農家において分娩後間も無い時期に多発するため、本疾病による直接的な損害に加えて、牛乳生産や繁殖成績に及ぼす影響も大きく、近年増加傾向にある重要な疾病である。通常DAの治療は開腹手術によって行われることが多いが、コストの面で農家の負担が大きい。第四胃左方変位 (LDA) において、経皮的に第四胃を固定するバー・スーチャー法 (BS法:びんつり法) は、外国では開腹手術と治療率が遜色なく低コストな治療法として多用されているが、わが国では実施される機会はあまり多くないと思われる。その理由の一つに、BS法に用いる器具がわが国において市販されていないことが挙げられ、国内のこれまでのBS法に関する報告は、すべて手製の器具により手術が行われていた。今回、演者らは米国からBS法用の套管針および固定器具を入手し、LDAをBS法により治療し良好な成績を得たので報告する。

材料および方法 栃木県那須塩原市内の酪農家8戸に飼育されているホルスタイン雌牛15頭を用いた。使用した器具はDA TROCAR/PUSH RODおよびGRYMER/STERNER DA TOGGLE SUTURE (いずれもJORGENSEN LABORATORIES, Inc.) である。術式は、患畜を横臥させた後ゆっくりと回転させて仰臥とし、打聴診によって腹壁直下に第四胃の存在を確認し、套管針を刺入して内筒を抜き噴出するガスで第四胃を再確認し、固定器具を第四胃内に入れる。

これを前後2箇所で行い、固定器具の糸を互いに結びあわせて第四胃を固定するという方法である。成績の評価は、DAの再発や合併症により淘汰されないものを治癒とした。DAを再発したものは、畜主が希望すれば開腹手術を実施した。

成績 BS法を行った15頭中13頭が治癒し、治癒率は86.7%であった。また、施術時間は5~10分であった。治癒しなかった2頭はいずれも再発例で、開腹手術をした結果2箇所の固定のうち1箇所は、第四胃に器具が進入していなかった。再発以外の合併症で淘汰されたものは認められなかった。

考察 BS法の利点は、処置が簡単で短時間で終わり安価なことといわれており、これまでの報告もこれらを裏付けている。演者らの今回の成績では、LDAを発症した15頭をBS法によって治療した結果13頭が治癒し治癒率は86.7%で、これまでに報告されているびんつり法および開腹手術と同等であった。処置において、患畜を仰臥保定にする作業に多少の煩雑さはあるが、手術時の抗生物質投与が不要なことで廃棄乳がないこと、技術料が開腹手術に比べ約10分の1で済むことなどメリットの方が大きいと考えられた。よって、DAの発生の増加する今日、BS法はLDA治療法の選択肢としての重要性が増していると考えられた。